

# 人権コラム 心、豊かに

## ◆ 決め付けずに「見る」

＜我々はたいていの場合、見てから定義しないで、定義してから見る＞

この言葉を残した、ウォルター・リップマンの職業はジャーナリスト。第1次世界大戦前後から20世紀半ばにかけてアメリカで活躍し、1922年に発表した自著作にこの表現を記しました。

人が実体験によって知り得る事象は限られており、ほとんどの事象はメディアなどを通じて知るといってもいいでしょう。ところが、リップマンはメディアの報道そのものに冒頭のような傾向があるため、現実と完全に一致しないことがあるとし、そればかりか、報道の受け手側も内容を自身に都合よく解釈するため、現実と人の認識の間に「ズレ」が生じると指摘しています。

情報が溢れ、同時にあらゆる機会でその情報に接することができる現代社会は、このズレが大きくなってしまいがちです。そのうえ、「実体験に基づいた現実に即した定義」であっても、それが少数派の場合、多数派の「他者や世間一般の定義」になびいてしまう風潮が見られます。

さらに、このズレは先入観や思い込みと組み合わせたり、差別心や偏見性を助長してしまう要素を持っています。例えば、血液型による性格判断などは、その代表例といえるのではないのでしょうか。「○型はわがまま」「○型とは意見が合わない」など血液型でひと括りにし、相手や他人を評することは、＜定義してから見る＞典型例であるといえます。欧米諸国には、このような科学的に立証されていない「血液型の定義」は存在せず、迷信に惑わされやすい日本人の象徴的な一例のようです。

リップマンは、100年前に「定義＝決め付け＝偏見・差別」の危険性をすでに見抜いていたのかもしれませんが、100年という年月が経過した今、現実や事実、そして過去の歴史と正しく向きあった「定義」をそれぞれが身につけることに気付く必要があるのではないのでしょうか。